

武家名目抄稿

弓箭部

十四

四五六	二五二〇六	和書門
中四九	七七六	
冊架函號類		

庫文閣内	和書
一五三函	二五二〇六
一三架	四九六冊
	號類

内閣文庫	
番號	和 25206
冊數	457 (296)
函號	153 275



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





武家名目抄稿第十四冊

弓箭部八下目錄

鵠ノ羽

鵠ノ霜降

鴻ノ白尾

白鳥ノ羽

鶴ノ羽

鶴ノ焦羽

今无



山鳥ノ羽

山鳥ノ尾

山鳥ノ引尾

雉ノ引尾
今无

青鷺ノ羽

川雁ノ羽

雁ノ羽

大鳥ノ羽
蘇京十四冊

鷓鴣ノ石打

鷺ノ羽

梟ノ羽

雞ノ羽

雜羽
今无

竹ノ羽

竹ノ羽

走羽

外懸羽

弓摺羽

遣羽小羽

シキリ羽

羽房

羽フクラ

羽タケ

外向内向ノ羽

スルモキ
今ノイソ

羽幾尾

羽櫃
今无

ウラ樺本樺

上矧本矧

真矧
今无

樺矧

鷺目樺

絲矧

色絲矧

藤矧

藤皮ニテ矧タル矢

漆矧

交セ矧

三鳥合

アラハ矧 今元

武仕切矧 御新第十四冊

コリ矧 今元

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 武仕, 切矧, 御新, 第十四冊, 今元, 下, 取, 付]

武家名目抄稿第十四冊

弓箭部八下

鵠ノ羽

源平盛衰記云小坪合畠山重忠組ムトテ

打出ケリ紺地ノ錦ノ直垂ニ火威ノ曹ニ

蝶ノスソ金物ヲソ打タリケル白星ノ甲

ニ廿四差タル鵠羽ノ箱籠笠上ニ取テ付

ケ云々

判官物語云土佐房堀川 あつれあていのこ
に人のまゝり之の由をやうんとせは入て
見よと修らふをせんさむり入て見れま
あとのみくひ乃ちゆもつとまをたるやい
さうれむさしとるをたるさうさう
まのうへ十四そくにはさうさう木は
乃あさりゆとあるさうさうさうさう

太平記云公家一統 兵庫鏢ノ丸鞘ノ太刀

ニ虎ノ皮ノ尻鞘カケタルヲ太刀懸ノ上
ニ結テサゲ白篋ニ節陰計以テ塗テ鶺ノ
羽ヲ以テ矧タル征矢ノ三十六指タルヲ
客高ニ負成ニ所藤ノ弓ノ銀ノツク打ハ
ルヲ十文字ニ拳テ云々

鶺ノ霜降

源平盛衰記云源平侍 十郎ハ宗長カ矢ヲ
取テサラリトハ遣テ此ハ篋誘モ尋常

平治物語云 内裏物 指条 次あんかくの志んと

もあつ十六さいくちまのひくまを

さりとふよろひをさる又孫のあを

ころとあるあーあるれふとのを

めうまるとりといふちをま記志り

子白鳥のまうくもたさやといふえ

とさ内もちて云い

太平記云 山門 條 白鳥ノ羽ニテハキタル矢

ノ十五束三卧有ケルヲ百矢ノ中ヨリ只

二筋抜テ弓ニ取副云々

鶴ノ羽

古今著聞集云此むけの兵衛尉無矢を

知すつとくつたろつ乃羽をもとめはうふ足きれ

の郎等ともうもーやおさるさるるれ

の上六太夫といふ弓の上毎閑く此意にた

りやはい見よといひれ下人立出く見

品今河より山の田少は候と事を聞くと
弓矢を尋て出さふもたゞ。さて南へ飛ける
城上六矢をまきてたおりくも射をり
まひりれ。やまひりれ。志まひりれを
それく。やまひりれを聞くは。城をすまひ
り。遠くありて河北南乃岸のく。飛経ふ
あまひりる時。く。引く。まあち。く。まあや
ま。す。射。あ。り。く。り。く。百。天。中。心。也。

山鳥公羽書云

判官物語云 忠信 寂 ありつすくあり

く。ふ。子。天。ま。れ。ま。と。と。あ。ん。る。う。く。く。
一ぬ。の。く。め。に。あ。も。さ。う。つ。き。う。を。ま。つ。ま。
ま。り。と。成。く。あ。く。ま。城。よ。せ。ぬ。る。れ。ま。成。を
と。く。く。く。く。あ。ま。り。れ。あ。ろ。ひ。よ。あ。く。く。
あ。ろ。の。ふ。と。山。鳥。の。ま。れ。や。十。六。さ。り。ま。ち
ま。れ。由。こ。ち。や。う。ま。く。く。あ。れ。く。り。

武者物語云実撰書大將年此年の人を
勿論の役也此年此年此年此年此年
首の弓に立てむる重敷乃弓を拍き
首此左おふ山鳥の羽の矢を之能左
一首此年此年此年此年此年此年
里一丈さう大物海一丈此年此年

山鳥ノ尾

保元物語云義朝白河殿夜討條為朝三年竹ノ節近

ナルヲ少シ押磨テ山鳥ノ尾ヲ以テ作ク
ルニ七寸五分ノ丸根ノ篋中過テ篋代ノ
アルヲ打クハセ暫持テヒヤウト射ル
平家物語云頼政身ハ二ノのりかぬ山
とり此れを心てまひしりたりやニ
ちあけとう此由にとりそくあんで
んの大床に志ろうた
又云の糸やおろのちよりましくらん

り終へる舟も志く此大やを一つとて
わらへる舟もや終へんとてまて
りるましくつゝはやをぬく世へ終へ
此れをも何てまじりやの十匹をく
ありりるくま終へり一そくを
よ此國のちう人お井此を
うる一あそそりつける
言忠聞書云山多如尾矢お付る
とて

くあつ矢系りは多なり此小お付る
儀あり外皆山多乃尾もて矢もく
へす但志んとてあつとて
りるは次是を此國志んとて
弓張池云山多此尾もく
海守如くかりまて
のうろと也是もまて

此羽を白く小おし山鳥の尾を付す也以外
別小定して布式の矢子はくる事ありこと
にみあやよとく此おめてまくる事あり
射を捨きお云山鳥の尾はう所あり或は
そやあまとい一二用は魔障を去りまくる
時山おを申るなり

山鳥ノ引尾

太平記云 隆資卿自ハ 惡源太此太刀ヲ給

雁テ十トカ心ノ勇マサラン洗皮ノ鎧ニ白
星ノ甲緒ヲ縮テ只今給リタル金作ノ太
刀ノ上ニ三尺八寸ノ黒塗ノ太刀帶副三
十六差タル山鳥ノ引尾ノ征矢森ノ如ク
ニトキミタシ三人張ハ弓ニセキ絃カケ
テ嚙シメシ態臆當ヲハセサリケリ
青鷺ノ羽
吾妻鏡云建久元年九月十八日己巳佐々

木三郎盛綱保一挨野箭一腰進上御上洛料也
即覽之無文深羽以驚目樺挨之藤口卷也
以青鷺羽為款鷹表箭是曩祖將軍天治年中令
征代與州梟賊之後歸路之日用此式云々
川雁ノ羽
了俊大學紙云引目ハ深多ク糸ありめて
羽ハ切存中黒凡黒等也河りと云多の羽
をも平也

雁ノ羽

烏羽

桂川地藏記云箭者筋切有妻白中黑白尾

糟毛尾款高鳩尾鶴本白鷹鳥鶴鳥羽而作之

鷓ノ石打

源平盛衰記云東使武藏國住人勅使河

原權三郎有房中同四郎有則ハヒヲ纈ノ

直垂ニ赤威ノ曹同色ノ甲ニ十八差タル

鳩ノ石打頭ヲ高ニ履ヒ三所藤ノ中取テ

黒駿馬ニ金伏輪ノ鞍置テ乗タリケル

鳶ノ羽

梟ノ羽

鷄ノ羽

今川大双紙云矢小不付羽の事言ゆくふ
之に羽を付す

高忠守書云ゆくの羽を付す

事也人を油伏する時矢小に付たり

羽本紙云矢小をぬ羽の事といふくふ

去のとりあを之に以下也但口傳あり

カ々羽

カウコノ羽

高忠守書云的矢小羽小く其をほくる
有へすすねくから羽の事
く此羽なる也よの事なるは

羽と云也人の方よりは、おたふと云るま
時をたう此まといはるよその言は、おを
とく屋敷事あまうし、さうく、おと
中へ一は、まおゆを一尻尻と云い、まお一と
と云へ

走羽

外懸羽

弓摺羽

今川大双帝云矢お羽の事上の屋りお前
ゆきり、お今一ッ、と、おげと云也矢お羽の長
さ、四寸也

高忠聞書云矢お三付るおお名の事、まを
此と線、まお付るまを走、おと云外ある方に
付るまを外、おげといふなり、ゆおなる方
に付るまをゆ、さうといふあり
又云、まへにまお、さう矢あて、まおと

いふとふしゝゝゝてお矢に屋。里。ま。と。り。ふ
事あまゝらすこれ秘説を利
佐竹宗三聞書云矢お三の名走。お。外。け。
弓。ま。り。と。云。外。け。あ。何。の。お。弓。ま。り。と。云。何
おを付。ゝ。と。云。い。は。る。お。の。お。外。け。
大退物。自。担。云。矢。此。お。三。付。ゝ。と。云。何。の。お。
と。り。げ。の。お。ゆ。ま。り。お。と。り。可。心。得。也。の。お。外。け。

遣羽小羽

高忠守書云矢お羽。お。屋。里。お。と。り。可。心。得。也。
り。里。矢。う。か。ら。矢。お。り。ま。ゝ。と。り。に。お。外。け。
事あり。お。外。け。何。の。お。外。け。に。ま。く。矢。あり。け
お。外。け。お。と。り。ま。り。お。外。け。此。小。お。と。云
あり。矢。お。外。け。お。外。け。お。外。け。お。外。け。お。外。け。
と。り。お。外。け。お。と。り。お。外。け。
又云。お。外。け。お。外。け。お。外。け。お。外。け。お。外。け。
お。外。け。お。と。云。ち。い。さ。お。外。け。お。と。り。お。外。け。お。外。け。

羽フツラ

新交物語云上佐房桓川 一寄五條 びんかんこく

名もあさけらう心のけうあるにまきてこふ

のさ記けを承りゆ也正福ん亦三我と思ん

ものつふまてく免やとそりあるとさま

これをして居まうは思ひられいとまのま

にあ申まかうていこのす記よう福し十三

そくふりひまひやうといふまきんこつゆんて

のあぢらう哉もぶく。せめてほつといと

哉しうきておれまういふあくうておけを

てろおおーほけむなうくこれお井哉な

を屋うふそつりうふ

北條五代池云北條 北条 義濃 氏親 家

中子鈴木左京亮ハ本をまきう強弓なり

先登進小進進いかまうまあ川矢まぶくらを

此まをといふ事あく一忽射殺を所の者多

羽々ケ

為忠聞書云矢の羽々ケの寸法ありと
いふとも是は子細ありて事也矢ふありて
見らうらひて法をいふとやあはれ此羽たれ
五寸あまり可なりといふて是無から大射
此羽多けを四寸一之を可なり此定
へ

射法拾遺抄云羽長の寸法の事大射の
かきり四寸二寸なり

外向内向ノ羽

軍陣聞書云矢ハ白昆子露の羽を白也は
きやうハ白さなり系ありてはくハ
も不苦但略後あり系ありて重なり
事ありは古書とくぬはをたえり此系
もくはくハも空はきハぬえりの系あり

同方刀一握馬一足小鳥羽十筋^尻を止し

ウラ樺本樺

了後大系残云大退物事矢う。樺をい黒
系よりまきて本樺をい黒本皮もてまきて
多る面白あり

上矧本矧

佐竹宗之圃書云同目的の時雪雨ぬるる

何うと作^年系を栗梅み深うせくくす矧を
てくくよ巻ておく尚度ふゆ。作本作のま
弓のつもの上ゆりせて射後ぬる也余亦ゆ
これいゆる。まきの的矢とくゆる也的矢
と系よてま^せて赤漆のつし記色よぬ^せ
もくす^せ。この矢大小ぬする也

樺矧

判官物語云^後吾大物^大く^大れ^大志^大ろ^大さい^大ん^大ん^大

みちしちれよゆひまてつじささくうふとちまきり
れりありるに急布一けしそちささこの
ゆもわかにはまきまてやひつをうつくせいの
うふわいとれさめさけとてのけれあつ
てのあちまきり我志あけしそふのうを
くさそまきまてまけまきりくもくまきり
くるやのわかいとくろろくつあけあふ
けこらへくまきり守あきりつ守よこ

さくさめつてまはのきりりを五六十そ
いもくろる

鷲目樺

吾妻鏡云建久元年九月十八日巳巳佐々

木三郎盛綱挨野箭一腰進上御上洛料也

即覽之無文深羽以鷲目樺挨之藤口卷也

絲矧

笠掛化云是々あくら大射くちあめわく

いそ糸はき水事く。も。ま。紀。う。本。也。

色絲矧

出法師為書云海と也尚國お行妻のまこに
又四路さやらんを深おま也くふい糸糸ま
のうに雪北下とくやのこさ事反毛のむむ
起の星お回るなるふ出立は言こすいま
毎按強ぬ人の西持南成ものまこさか
乃る張束北屋うと一乃経にお徳なり

藤矧

京師本保元物語云

新院御所各門々固条

為義長緋

直垂ニ黒絲威鎧ヲ著中矢ハ三年竹ノ極

テ節近ニ金色ナルヲ洗ヒ磨カハ性弱リ

ナントテ節ハカリコソケ木賊ヲ以テ磨

キ猶モ輕クテ折モヤセントテ鐵ヲノへ

テ篋中過ルマテ節通シテ入タリ羽ハ鷲

鳥鷄ノ羽ヲ嫌ハス藤ハキニ卷タリ答コ

ラヘスレテ破碎ケル間角ヲ續テ朱ヲ指

タリ

藤皮ニテ矧タル矢

参考保元物語云半井本義朝白河殿夜討条為朝ハ白

地ノ錦ノ直垂ニ唐綾威ノ鎧龍頭ノ兜長

覆輪ノ太刀ハキ山鳥ノ尾ノ藤ノ皮ニテ

ハキタル矢二十四指タル前ニ一ツハ射

タリ節卷ノ弓握リフトニテ八尺五寸ヲ

持云々

漆矧

高忠聞書云。う。る。一。は。さ。此。事。的。矢。置。懸。る。

大射。一。是。ま。み。ふ。る。ま。は。さ。此。矢。た。る。百。何。

も。う。一。心。起。を。一。て。振。へ。る。な。り。雨。雪。俄。

耳。ゆ。る。ま。可。射。た。め。あ。り。い。と。乃。上。を。何。も。

あ。起。者。う。る。一。に。ぬ。る。一。さ。也。雨。外。に。ぬ。時。一。

は。さ。射。る。子。有。一。り。を。

又云矢筒中の矢三自在外まゝ。一まゝ。
水的矢一自入筒一自自然而留の時
用心あり又一自去んと一自入筒
弓張弛云的小まゝ。一まゝ。の矢成りて
との此時依し雨あり其時射
べき多あり

射禮私記云雨雪此日なと。一まゝ。
矢を用意可仕也されハ古人ハ一まゝ。此矢

を筒に入る也雨雪よ。一まゝ。
よりとあんとま。をま。也

武田射禮日記云雨雪ノ日ナトハ漆ハキ。
ハ矢ヲ用意シテ可仕ナリサレバ古人ハ
必此矢筒ニ入ルナリ

交セ期

平家物語云の新や新中あんとま。此
このやをゆて。一ま。とま。

此もありあもせてまゝの十三とく之
ふせありしよふくろあ紀より一そくをそ
わら此小右郎たつたよりとう—
あてりきつけりる

高忠守書云あせも知わらしらふあり
合のりと云事ふあらきと也但る此お
あらしりおし深羽をり合くあせもさあ
てはてしあらしらふへあらきともり合の

あらしらふへあらきともり合の
弓張弛云ゆせもりすらともつれも
志おつ入らるらしら鷹のおも入るるら本
あり但あきせもりあらしらは本式もあらしら何も
—らあらしら—ら

合七矧

、本保元物語云りらあらしらのよ山とりの
まらあらしらせらさらあらしらあらしらあらしら

くもさひのちりまそまらさみ事託
平家物語云あふきの 一平比のまら亦ハ
りり乃をのちりりちみあうちのちりさ
をもちくおちくひまらさそりさへあふ
をさまらさちあふひのよろこぶさく
あしちろ乃ちちをさる亦さくあふさ
りあやあひさささうあふあふあふ
ありせくまらさあふさふぬさあふさ
をそさくさくあふ

をそさくさくあふ

長門本平家物語云先帝二位 中御言

矢をのよせく見給へまらさの相澤中
ろにまあませはくくあふさふさ
ぬ十二さくさふさささささささ
て白鬘子和田小右衛門義盛と懐古をさ
あふあふさ

三鳥合

源平盛衰記云 源平侍共軍條判官ハ若者共蒐出
テ、蹴散ト下知シ給ヘハ武藏國住人丹
生屋十郎同四郎等ヲメイテ蒐ク十五束
ノ塗篋ニ鷲ノ羽鷹羽鶴ノ本白矯合セタ
ル矢ヲ以テ先陣ニス、ム十郎カ馬ノ草
別ヲ筈際射籠ミタレハ馬ハ屏風ヲ辺カ
如ク倒レケリ 中興
弓張弛云々人の水軍合れくと云る

有るありゆめくりかまらるあり海せまる
とりふハませまをゆゆニとり合と云こと
有層のお際おあとはまてまをたる城云々
合とりふ也おハ何おあてもあれ云色の為此
おあてもたれ〜城云々合とりふあり

仕切別
小笠原入乃宗賢弛云云立の時志さりま
とてゆなりとくひあこま城お中あてま



同平同月十六日
同平八月廿日
武藏守正平

同平同月十六日

同平八月廿日

武藏守正平

